

オリジナル設計

コンセッションも視野

経産省案件 フィリピンでFSS着手

オリジナル設計(OEC)は、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社(DTFA)、海外水循環システム協議会(GWRA)と共同で、フィリピン国で下水道事業実施可能性調査(FSS)を進めている。経済産業省の公募案件「質の高いインフラの海外展開に向けた事業実施可能性調査事業」に採択されたもので、同国地方都市を対象にモデル都市を選定し、▽下水インフラ整備・維持管理における本邦技術・ノウハウの適用可能性▽PPPを含む事業実施スキーム、ファイナンス方策——の検討を進める。期間は来年2月まで。年内に大枠の方針を固める。FSSを通じ、コンセッション案件組成を目指す。

今回のFSSは、経産省主導の国家プロジェクトの一つ。川上構想段階から支援対象国のインフラ計画に関するもので、

日本が保有する質の高いインフラシステムの海外展開を促進する狙い。同国では急速な都市化の進展に伴い顕在化した

水質汚濁を抑止するため、2016年には同国環境天然資源省が窒素・リン除去などを求める排水規制の強化を行っている

。それら水質基準の達成を図るべく、現地の実態に即した水処理システムを提案する考え。共同事業者3社のうちOECは、既存ストックの整備状況・老朽化度合い、汚水流入量、水質などを現地調査するともに、その他の要因を踏まえ総合的に整備方策等の検討を進める。同社は、1993年以降、マニラ首都圏で下水道整備事業に参画してきたほか、マ

ニラッドウォーターサービスから処理場・管路に関する工事・システム管理を受託するなど、経験および現地人脈が豊富。また、パニヤラケ処理場建設案件において、FSS、詳細設計、入札支援まで一気通貫で手掛けた際のノウハウも活かし、LCCを重視した提案につなげる。DTFAは、主にPPP案件の組成へ、導入スキーム等の検討を担当し、コンセッションを見据えた運営モデルの構築を目指す。また、GWRAは、処理場関連を中心に担当する。OECの山内比呂士執行役員兼海外事業部長は、「チーム日本」として、水インフラ輸出を成

功に導きたい。まずはFSSを通じ、本邦技術・ノウハウのスペックインを「図る」と語るとともに、「FSSの成果として、セブ市、ダバオ市をはじめとする地方都市を対象に、本邦企業らによるコンセッションモデルの実現を目指す。その経験値は、東南アジア諸国での水平展開のみならず、将来的には日本国内でのコンセッション案件組成の際にも活かす」と今後の展望を語った。